

避難者の喜び 元気の糧に

温泉と料理で歓待

奥日光湯元旅館協組婦人部

観光客激減も

県境を越え 心づなごう 東日本大震災

【日光】奥日光湯元旅館協組婦人部は8日、今市青少年スポーツセンターの避難住民22人を湯元の温泉旅館に無料招待した。安全性をPRしよ



県産野菜を使ったサラダやカレーなどを味わう福島からの避難住民

た料理も味わってもらった。震災の影響で、同温泉も観光客が激減している。婦人部の小西令子部長は「源泉掛け流しの温泉なのに、ほとんど入ってもらえなくて悲しい」と落ち込んで

だが、「避難住民の方々に喜んでもらえれば、私たちにも元気が戻るはず」と考え、招待することを決めた。避難住民は婦人部が用意したマイクロバスで奥日光小西ホテルを訪問。県産の野菜だけを使ったサラダやカレーを楽しんだ後、露天風呂などで身も心も温まった。

福島第1原発近くの福島県双葉町から避難してきた会社員及川朋子さん(42)は「いつもとありますが、温泉自宅に戻れるのか分かります。落ち込むことはありません。落ち込むこと涙くんだ。定という。

南米の魚と水中散歩

ダイビング 児童が体験

【大田原】大型水槽で南米の淡水魚と一緒に泳ぐ「アマゾンキッズダイビング」が9日、県ながわ水遊園で行われ、参加した

子どもたちが魚たちとの水中散歩を楽しんだ。小学1年生から6年生まで11人が参加した。会場のアマゾン大水槽は水量約400トで、体長2メートルを超えるピラルクーやシルバー

の事態」が起きて、原発から約100メートル離れた那須に影響が及ぶには「じわじわとした時間がかかる」と指摘。「安全性は距離に比例しない。風向きによっては200〜400メートル離れた場所でも危険な場合もある」として事態を冷静に見極める重要性を説いた。

川に挟まれた那須野ヶ原複合扇状地の先端部に位置する大田原市がテーマ。縄文か

正確な情報共有 安全のとりにてを

那須で藤村さんが講演

【那須】寺子丙の発明家で「非電化工房」主宰藤村靖之さん(66)による福島原発事故を受けた講演会が9日、町内のホテルで開かれ、藤村さんは「放射能濃度など正確な情報を町ぐるみで共有し、那須を安全のとりにてにしよう」と訴えた。

講演会はまちづくり組織「那須高原クロスロード振興会」が主催し約420人が参加。日本大教授でもある藤



「最悪」を想定すれば不必要な不安はなくなる」と話す藤村さん

「最悪」を想定すれば不必要な不安はなくなる」と話す藤村さん



南米の魚たちとの遊泳を楽しむ参加者